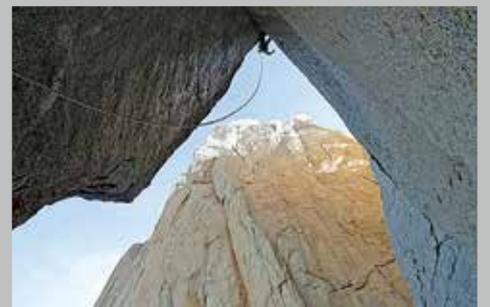
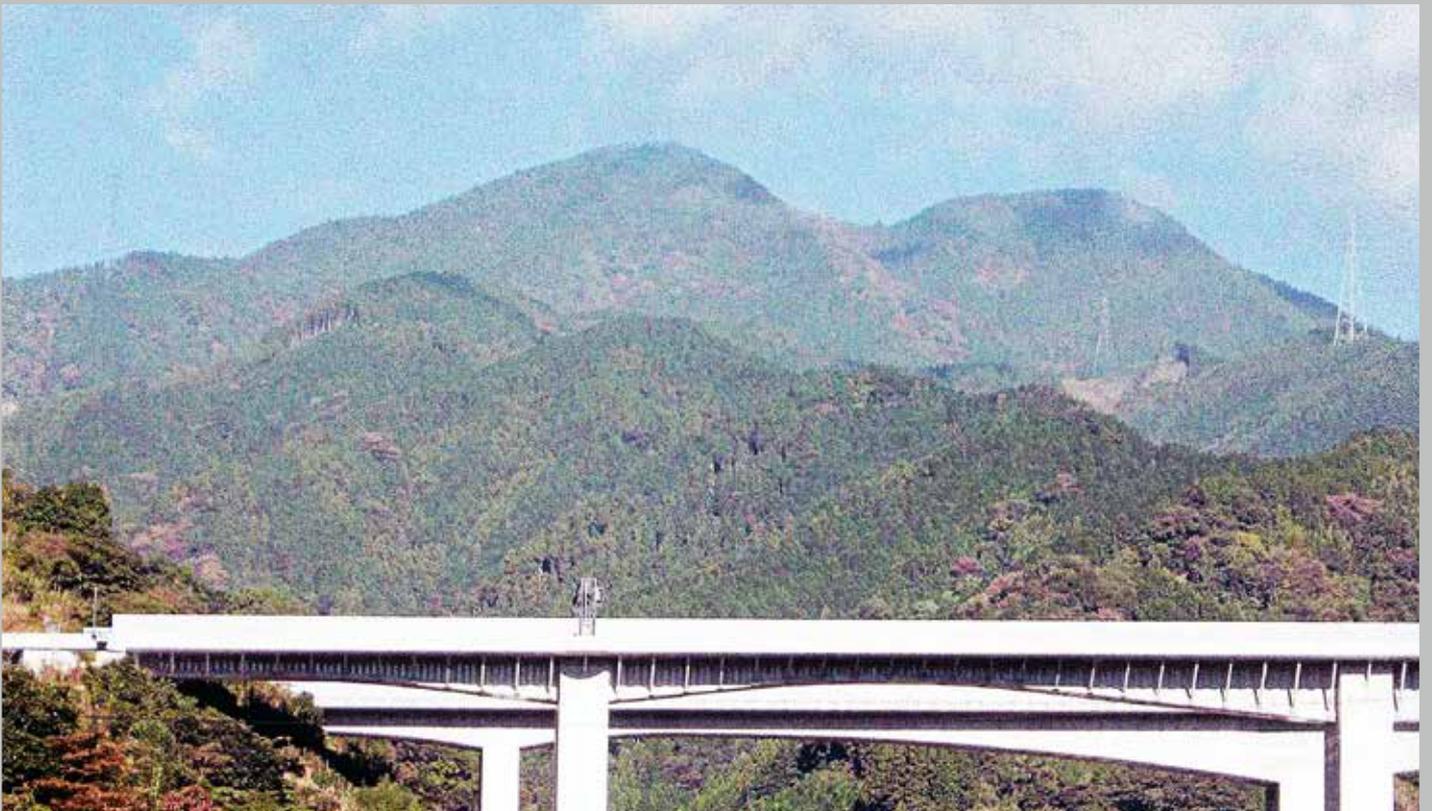


# 登山月報



2016年新春懇談会を開催	2
第6回全国高等学校選抜クライミング選手権大会報告	3
アジアユース選手権報告	4
全日本パラクライミング選手権大会 2016 を終えて	6
第87回 Mountain World	7
<b>新連載</b> 「山の日」制定記念 一ふるさとの山に登ろう	8
UIAAのスペイン会議出席と山岳事故調査計画への参加交渉の旅	9
中華民国山岳協会創立90周年記念式典に参加して	10
スポーツクライミング2016キックオフ記者発表会	11
埼玉県山岳連盟創立60周年記念式典	11
平成27年度顧問参与会報告	12
第5回日本山岳グランプリ贈賞	12
JMA、寄贈図書、編集後記	13

# 2016年新春懇談会を開催

恒例の新春懇談会が1月16日(土)にアルカディア市ヶ谷で開催された。当日は駐日ネパール大使代理ガヘンドラ・ラジュバンダリ氏をはじめ国立登山研修所・宮崎豊所長、加須市・大橋良一市長、印西市・高橋諭副市長、日本勤労者山岳連盟・西本武志会長、浦添嘉徳理事長、日本山岳会・小林政志会長、日本山岳ガイド協会・磯野剛太理事長、日本ヒマラヤ協会・山森欣一会長、日本山岳文化学会・小疇尚会長、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト・田上和義理事長など大勢のご来賓、招待者を迎えて、150名の参会者となった。

はじめに尾形副会長が開会を宣言し、八木原会長が主催者を代表して挨拶を行った。「今年から8月11日が国民の祝日「山の日」として施行される。これを好機と捉えて一人でも多くの皆さんが山や自然に親しむ仲間を増やし、登山の普及振興につなげたい。また、スポーツクライミングが2020年東京五輪から競技種目となる可能性が高くなった。日山協としては体制を整え、スポーツの頂点、祭典と捉えられている五輪大会で整然と競技を進行させなければならない。」と力強く挨拶された。

続いてご来賓を代表してラジュバンダリ大使代理、宮崎所長、からご挨拶を頂戴した。

来賓祝辞の後、各種表彰が行われた。まず、第5回日本山岳グランプリは、日本の近代登山の黎明期に地域山岳会として逸早く創立(明治41年)され、爾来107年の長きにわたって笠ヶ岳・錫杖岳をホームグラウンドに地域に密着した山岳文化の振興に尽力された飛騨山岳会が顕彰された。

続いて日山協や各岳連の活動に永年ご尽力、貢献された方々に対して功労表彰が行われた。受賞者は、木村実(茨城)、佐藤旺(東京)、徳永邦光(東京)、瀧本健(東京)、目次俊雄(千葉)、秋山泉(山梨)、松本睦男(富山)、土肥浩嗣(富山)、前田善彦(奈良) 溝上春見(長崎)の各氏。

次にI F S Cクライミング・ワールドカップ2015でワールドランキング女子1位(ボルダリング)となり2連覇を果たした野口啓代選手と世界選ユース手権ユースA男子ボルダリング部門で優勝した緒方良行選手が表彰されたが、2選手とも所用で欠席された。

一連の各種表彰の後、乾杯を行い祝宴に入った。

乾杯は、坂口三郎、瀧島清、国澤鎮雄、城隆嗣、田中文男、本木總子、神崎忠男各顧問によって行われ、代表して坂口顧問が挨拶して神崎顧問のご発声で祝杯を上げた。

北は北海道から南は九州・大分まで世代を超えた方々が一堂に参集され、あちらこちらで懐かしい想い出話に花が咲いていた。

新春懇談会には、スポーツクライミング日本代表選手会々長の杉本怜選手はじめ大場美和、田中修太、中村颯人、西田朱李ら5名の代表選手が出席され、歓談中に小日向徹選手強化委員長から各選手の紹介と今後の抱負を語って頂いた。ご年配の方々の中で10代の選手達は、ひととき異彩を放っていた。

名残尽きない楽しいご歓談の後、中締めが行われた。中締めは日本山岳会の小林会長にして頂き、最後に國松副会長より閉会宣言があり、お開きとなった。

(記 尾形好雄)



八木原会長の挨拶



功労表彰された方々

## 第6回全国高等学校選抜クライミング選手権大会報告

第6回全国高等学校選抜クライミング選手権大会（特別協賛：三井住友海上火災保険）が、12月23日（祝）、24日（木）の2日間に亘り埼玉県加須市民体育館にて開催された。年々参加都道府県が増えており、今年度は42都道府県（昨年41）から男子40都道府県（昨年36）、83校（昨年69）、109名（昨年104）、女子36都道府県62校（昨年60）、86名（昨年84）、合計195名（昨年188）の選手が出場した。昨年より県数で1、選手数で7名増加し、団体参加校も男子27校、女子22校と盛況であった。

開会式では、八木原罔明・日山協会長より「2020年東京オリンピックで開催競技候補となり、クライミングにも可能性が出てきた。今回参加している高校生の活躍によりオリンピックで活躍出来る場になる可能性が有る。」と力強い挨拶があった。

また、大橋良一加須市長からは、「鯉のぼり、うどん、クライミングのまち『加須』へようこそ。寒い季節の大会だが高校生の熱い戦いを期待したい。」とご挨拶をいただいた。

初日の予選はフラッシングで、男女それぞれ2つのルートに登り、その合計で競った。グレードは男子が13 aと13 a／b、女子が12 bと12 c。2ルートとも完登した選手は男子2名、女子9名で昨年より男子の方が難しくなった。その結果、男子26名、女子26名が翌日の準決勝に進んだ。

大会2日目午前の準決勝からオンサイト方式となり、グレードは男子が13 b、女子は12 dに設定。完登したのは男子の1名だけで難度が上がり、男女それぞれ上位8名が決勝に進出した。

午後からは女子、男子の順で決勝が行われた。前半の女子決勝はグレード13 aの壁に挑んだ。完登者はな



女子表彰

く38手目で実力選手がフォールする中、最後に登った高田ころ選手（鳥取中央育英・鳥取）が僅差を制して優勝した。2位には、大場美和選手（光ヶ丘女子・愛知）が入った。

後半の男子決勝ではグレード13 b／cの壁に挑戦した。いずれの選手も実力者揃いで、ギャラリーの熱い声援を受けながら手強い壁に挑んだが完登者は出なかった。その中で、準決勝で一人だけ完登した波田悠貴選手（久喜工業・埼玉）が、実力を遺憾なく発揮して優勝した。2位には、武者知希選手（北海道江別高校・北海道）が入った。

閉会式では、学校団体戦の優勝校には優勝カップ、6位までの入賞校には賞状と協賛社のマムートスポーツグループジャパンより副賞が贈られた。また、個人男女8位までの選手には賞状と協賛社のマムートとゴールドウインより副賞、さらに3位までの選手にはメダルが贈られた。

最後に今回で6回目を迎えた本大会のために準備段階からご尽力いただいた、地元加須市ならびに埼玉県



田島ころ選手



波田悠貴選手

山岳連盟の方々に感謝の意を表するとともに、加須市のクライミングウォールで己の技を競いあった若きクライマー達が今後のスポーツクライミングの発展に貢

献してくれることを切望する。

[この事業は公益財団法人ヨネックススポーツ振興財団の助成を受けて実施しています。] (記 中瀬和徳)

### 【大会成績】

個人男子			個人女子		
1位	波田 悠貴	(久喜工業・埼玉)	1位	高田 ころこ	(鳥取中央育英・鳥取)
2位	武者 知希	(北海道江別・北海道)	2位	大場 美和	(光ヶ丘女子・愛知)
3位	山内 響	(盛岡南・岩手)	3位	大河内 芹香	(佐世保東翔・長崎)
4位	日比野 良祐	(大垣北・岐阜)	4位	小武 芽生	(北星学園女子・北海道)
5位	豊田 将史	(野田学園・山口)	5位	木下 茜	(佐世保東翔・長崎)
6位	大高 伽弥	(盈進学園東野・埼玉)	6位	中村 祐香梨	(浜松日体・静岡)
7位	岡本 希大	(奈良北・奈良)	7位	錦織 美里	(広島井口・広島)
8位	村上 優太郎	(松戸馬橋・千葉)	8位	戸田 萌希	(山梨・山梨)
団体男子			団体女子		
1位	久喜工業	(埼玉)	1位	佐世保東翔	(長崎)
2位	鳥取中央育英	(鳥取)	2位	鳥取中央育英	(鳥取)
3位	新潟 東	(新潟)	3位	浜松日体	(静岡)
4位	松戸馬橋	(千葉)	4位	多 久	(佐賀)
5位	防 府	(山口)	5位	東 北	(宮城)
6位	洛 東	(京都)	6位	新 南 陽	(山口)

## アジアユース選手権報告

2015年12月2日～6日まで、マレーシアのプトラジャヤでアジアユース選手権が開催された。直前に開催が決定した大会であったが、日本や韓国、中国、インドネシア、インド、イラン、カザフスタン、キルギス、マレーシア、ネパール、フィリピン、シンガポール、タイ、香港、台湾など、約15カ国と地域、総勢200名以上の選手が参加した。

日本からは、男女合わせて21名(ジュニア5名、ユースA 6名、ユースB 7名、ユースC 3名)の選手が参加し、今回は2020年の東京オリンピックで実施される可能性の高い複合競技を見据えて、複数の種目を個々に選択してもらおう形をとり、半数の選手が自分の専門とする種目(リードとボルダリング)に加え、スピードへの参加を希望した。

大会は、仮のスケジュールが事前に発表されていたものの、当日に大幅に変更されることも多く、それに加えて高温多湿の劣悪な環境が合わさって、選手には心身ともに負担のかかるものだった。

そのような状況の中で、選手たちは自分の持っている力を最大限発揮し、リードでは11個(全体の46%)、ボルダリングでは15個(63%)、スピード：2個(8%)と、スピード以外は約半分のメダルを日本が独占するという好成績を収め、アジアでの日本選手たちの実力の高さを示すことができた。特に、世界ユースでも好

成績を収めた緒方良行と原田海(ユースA)、野中生萌(ジュニア)、是永敬一郎(ジュニア)、土肥圭太(ユースB)はアジアでの注目度も高く、彼らの登りを見に多くの観客が集まった。そして彼らの注目もさることながら、他の選手たちの活躍も目覚ましく、日本選手が登る度に大きな歓声が湧き上がった。中でも、大場美和(ユースA)、伊藤ふたば、西田秀聖(ユースC)は、リードとボルダリングの2種目で優勝を収め、ユースAとジュニア男子のボルダリングでは、1位に緒方良行・榎崎智亜、2位に原田海・波田悠貴、3位に中上太斗・清水裕登が入り表彰台を独占するなど、大きな活躍を見せた。

また、今回はスピードへのエントリーを希望した選手も多く、選手個人がオリンピックを視野に入れ



選手全員

て動き始めていることも感じられた。今回はクラシックフォーマットであったことや、タイトな競技スケジュールであったことから、事前にスピードにエントリーしていた半数のうち、5名に縮小せざるを得なかったが、スピードに出た選手たちは初めてにも関わらず、直ぐに動きに対応し、タイムを縮めていくことができていた。そして、驚くことに、野中生萌と榎崎智亜(ジュニア)が2位と3位に入り、表彰台を勝ち取った。レコードフォーマットではなかったものの、スピードの公式な国際大会で日本選手が表彰台に立ったのは史上初ではないだろうか。

一方で、相対的に見てリード・ボルダリング共にアジアの競技レベルは低く、世界ユースとのレベルの大きな差を感じた。今後、世界選手権や世界ユースでメダルをさらに獲得していくことを視野に入れるならば、これまで以上に競技力を強化していく必要がある。特に、複数種目エントリーする場合やタイトな競技日程での回復力や持続力を考える上で、体力面の強化は必要不可欠な課題の一つであるといえる。

また、他国の動きを見ると、近年、韓国は成績不振な印象を受けるが、ユースBからの強化を組織だで行っていることや、中国もこれまでスピードがメインだったものからリードやボルダリングにも力を入れ始めていることが窺える。今後もオリンピックの動きが活発してくれば、さらに各国で強化が始まり、アジアのレベルも上がっていく可能性がある。日本も他国に引けを取らぬよう、チーム一丸となって強化を図り、更なるパフォーマンスアップを狙って大会に挑みたい！

●選手団：25名

(参加選手および参加種目は右記の表参照)

- ・スタッフ：小日向徹，西谷善子，鈴木友希，中貝次郎 (計4名)
- ・ジュニア：女子1名，男子4名(計5名)
- ・ユースA：女子2名，男子4名(計6名)
- ・ユースB：女子3名，男子4名(計7名)



ジュニア 清水裕登選手

- ・ユースC：女子2名，男子1名(計3名)

(記 西谷善子)

姓	名	性別	クラス	リード	ボルダリング	スピード
野中	生萌	女	J		●(1位)	●(2位)
高田	こころ	女	A	●(2位)	●(2位)	●(7位)
大橋	美和	女	A	●(1位)	●(1位)	●(6位)
中村	真緒	女	B		●(1位)	
樋口	結花	女	B	●(5位)	●(3位)	
西田	朱李	女	B	●(1位)		●(12位)
伊藤	ふたば	女	C	●(1位)	●(1位)	
菊地	咲希	女	C	●(3位)	●(2位)	
是永	敬一郎	男	J	●(5位)	●(7位)	
榎崎	智亜	男	J		●(1位)	●(3位)
波田	悠貴	男	J	●(2位)	●(2位)	
清水	裕登	男	J	●(1位)	●(3位)	
緒方	良行	男	A	●(6位)	●(1位)	
原田	海	男	A	●(2位)	●(2位)	
豊田	将史	男	A	●(9位)	●(4位)	
中上	太斗	男	A	●(7位)	●(3位)	
土肥	圭太	男	B	●(3位)	●(4位)	
小西	桂	男	B	●(7位)	●(8位)	
中村	颯人	男	B		●(1位)	
田中	修太	男	B	●(1位)		
西田	秀聖	男	C	●(1位)	●(1位)	

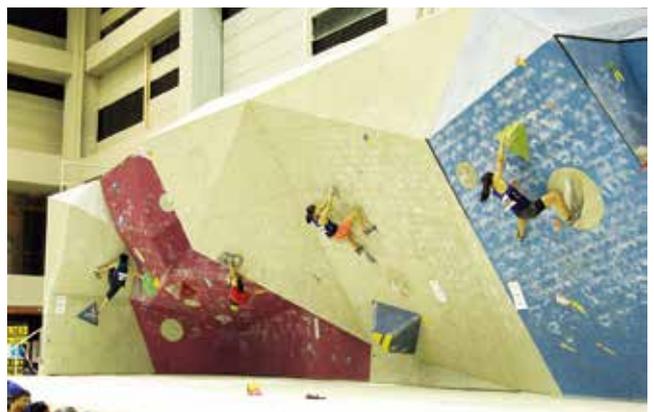
(メダル獲得者を赤で表示)



男子ユースA 緒方良行選手



男子ユースB 中村颯人選手と女子ユースB 樋口結花選手



ユースB、ユースCの決勝

# 全日本パラクライミング選手権大会2016を終えて

1月10日(日)、東京の明治大学和泉キャンパス総合体育館クライミング施設で全日本パラクライミング選手権大会2016が行われた。

大会は、L A (脚欠損) 男子1名、N P D (神経障害) 女子2名、B 1 (視覚障害) 男子5名、B 2 男子4名、女子1名、B 3 男子1名、女子2名の合計16名のパラクライマーと大会役員19名、観客約50名をのりもと大会が実施され、声援も多く盛り上がった。

会場は、東京都山岳連盟の水村氏のご協力をいただき、その上大会に必要な備品も大学のもを数多く使用させていただきスムーズに行うことが出来た。

審判業務に関しては山本和幸氏が、いつものノウハウを遺憾なく発揮され、すばやく成績処理も行えた。ジャッジに関しては審判員資格を持っている明治大学の学生が、前日のルートセット時から来てルートマップや会場作りを行ってくれた。大会当日のジャッジも丁寧に見てうまく審判業務を行ってくれた。

特にパラ大会で大切なのは、障害の認定である。この度は認定医である林ドクターが来てくださり、選手が持参したI B S A 準拠の診断書を診て、クラス分けをしていただいた。パラ大会には認定医が必ず必要である。

ルートに関しては、本当ならば予選2ルートを終え、決勝としたかったが、大会の運営上1日で予選・決勝を終えるという制約があったため、予選を1ルートとして行った。グレードは5.10 a / b で16人中12名が完登という結果であった。12名の完登というのは、パラクライミングが着実に浸透してきていると実感出来るものであった。決勝ルートは5.11 b 程度で完登者2名というものであった。中間部の急傾斜部を越える所で差がついた。



NPDクラス  
総合優勝

LAクラス



選手の皆さん

表彰は総合1位と各カテゴリー1位を男女別で表彰した。上位4人がカテゴリー別1位でもあった。7カテゴリーの参加であったので7名を表彰し、メダルを授与した。

パラクライミングの大会が日本山岳協会の主催で行われたことは大変意義深いことだと思う。スポーツクライミングが広く認められ、多くの国民に親しまれるスポーツとなってきた現在、障害を持った人がクライミングに興味を持ち、始めようとするのは必然である。パラクライミングもスポーツクライミングと同様に支援していくことが大切と考える。

この大会は日山協の年度計画にはなかったため、パラクライミング大会実行委員会委員長として広島県山岳連盟の私が計画し、大会を行った。今後は日山協競技部の中にパラクライミングを位置づけ、そこで計画を立て実施していくべきと思う。競技部にパラクライミングのことを考え、計画していく部署を設けてもらいたい。

今回、多くの方々のご協力で開催できたことを感謝いたします。ありがとうございました。

(全日本パラクライミング選手権大会2016実行委員会  
委員長 佐藤 建)

## ■カテゴリー別優勝者

男子B 1 : 小林幸一郎、男子B 2 : 会田 祥、  
男子B 3 : 蓑和田一洋、男子L A 1 : 大槻 智志  
女子B 2 : 青木 宏美、女子B 3 : 前岡 ミカ、  
N P D : 吉田 藍香

## 第 87 回 Mountain World

### パタゴニア 2015 / 16 ハイライト

#### 池田常道

パタゴニアのエキスパート、ローランド・ガリボッティ（アルゼンチン）は2008年に念願のセロ・トーレ縦走を果たしたあとに語った。「縦走そのものは5.11、A 1 以下にとどまり、これまでの技術的水準を超えるピッチはなかった」そして、パタゴニア登攀の未来は「1980年代に固定ロープを用いて登られた困難なルートによりよいスタイルでの再登」だと喝破した。

もちろん、岩峰群を縦走することに意味がないわけではない。その後も、トミー・コールドウェルとアレックス・オノルドが2014年に行ったフィッツロイ全山縦走（フィッツ・トラバース）や昨年コリン・ヘイリーとマルク＝アンドレ・ルクレールが行ったセロ・トーレ逆縦走（熊と仏陀のトラバース）を初めとする大小の縦走が記録されている。しかしある意味、登攀行為の質より量的拡大ともいえる縦走に対して、「80年代のクライマーたちは、はるかに献身的に課題に傾倒していた」という彼の指摘にはうなずける面がある。アルピニズムの本性は、「技術的困難性を追求するところにある」と彼は主張しているのだ。

ガリボッティが示したこの見解に応えるような登攀が1月7日から9日に果たされた。コッラード・ペスチェ（イタリア）ら5人が、トーレ・エガー（2850m）南東壁の「サイコ・ヴァーティカル」を1回のビバークで登ったのである。1986年11月18日から12月7日にかけてスロヴェニア（当時はユーゴスラヴィア）のフランチェク・クネズ、シルヴォ・カロ、ヤネズ・イエグリッチが拓いたルートで、セロ・トーレとのコルを経由することなく、取付から950mを登って頂上に出る。グレードはVII+（5.11 a / b）、A 3。550mまで登ったところで固定ロープが尽き、残りの450mは22時間の連続攻撃で完登している。ペスチェらの登攀は、それ以来ほぼ30年ぶりの第2登となった。

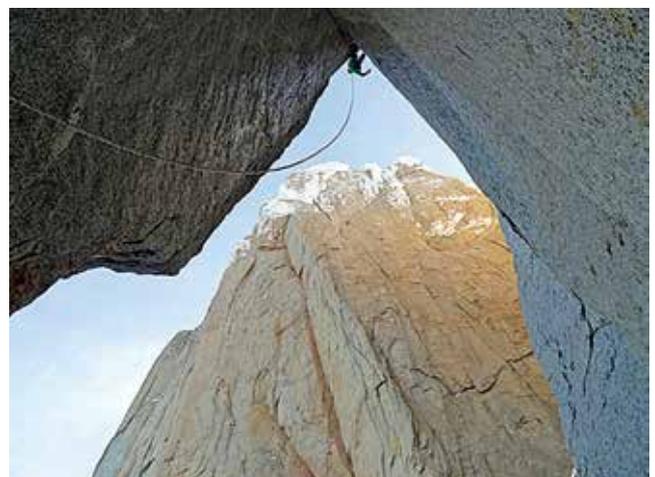
ペスチェは、ローラント・シュトリーミツァー（オーストリア）、トミー・アグージョ（アルゼンチン）と3人で6日に取付のノルエゴス・ビバークに上がったとき、イニャキ・クッシラートとカルリトス・モリーナのアルゼンチン・ペアと出会い、目標が自分たちと同じであることを知った。

翌日、ペスチェの組が先行してアルゼンチン・ペアが後続する。まずシュトリーミツァーが出だしの急峻なガリーを数ピッチリードし、ペスチェとアグージョが引き継いでA 3ピッチに取りかかった。しかし、時間がかかるため後続はすぐに追いついてしまい、長時間待たされる羽目に陥った。これでは全員の成功も覚束なくなるとして協議の末、以後の11ピッチはトップが登り終えたらロープを固定し、あとの4人が続くことにした。上部ピッチはもっぱらアルゼンチン・ペアがリードし、15ピッチ目でビバーク。2人分ぐらいしかいないレッズを掘り広げて、なんとか5人の腰掛を作った。翌日は、ルート上部に待つ一連のディエードルをすみやかに登り、午後10時に頂上マッシュルームに到達。もう1回ビバークしてから南壁の76年初登ルートを下降した。この登攀にはガリボッティも、自ら主宰するPataclimb.comで賛辞を贈っている。

\*

トーレ・エガーのもうひとつの話題は、アメリカのコリン・ヘイリーが単独初登頂を果たしたことだ。1月19日午前0時45分にノルエゴスを出てシュタンハルト北のコルに上がり、東壁中断に走るランベを経て南のコルまで下降。プンタ・ヘロン（2750m）を越えてエガー頂上に立ったもの。エガーもヘロンも、単独で登られたのは初めてだった。彼は2010年にシュタンハルト（2730m）にも単独初登頂している。

疲れを知らぬヘイリーは1月31日、アレックス・オノルド（アメリカ）と組んで、シュタンハルトからセロ・トーレまでの南下縦走を20時間40分でやってのけた。ふたりは前年にもこれを試みて、セロ・トーレの肩で惜しくも断念していた。ヘイリーにとって、これは8回目のセロ・トーレ登頂となった。ちなみに彼は、フィッツロイにも10回登っている。



トーレ・エガーのサイコ・ヴァーティカルを登るコッラード・ペスチェ。ローラント・シュトリーミツァー撮影

## 「山の日」制定記念

—ふるさとの山に登ろう—

静岡県・竜爪山(りゅうそうざん)

古くから信仰の山として親しまれてきた竜爪山は、薬師岳(1051m)と文殊岳(1041m)の2峰からなっている。特に文殊岳は、一等三角点の山として子供から大人まで多くの人達に登られている。近年他県からの登山者も多い。4つの登山コースの内、一般的な2つのコースを紹介する。

## 平山・三本桜コース

竜爪山線バス平山下車。竜爪神橋を渡り、舗装された部落の中の道を進む。天王橋を渡るところから坂道となり、長尾川沿いの道を進めば、右手に竜爪山穂積神社の石鳥居があり、ここから林道が分かれている。

この分岐点に石の階段があり、少し登れば三本桜につく。(平山から約2km)

ここに竜爪茶屋がある。新道と旧道があり、ここから林道と分かれて登山道を登る。きれいに刈込まれた茶畑の急な斜面を登る。10分も登れば林道に突き当たるが、横切って檜林の中を進む。道は広く案内板は数多くある。前方には杉の巨木が高くそびえ、左手にどっしりとした2つの山頂を持つ竜爪山が大きく迫ってくる。左下に長尾沢にかかる縁結びの滝が見える。すぐ水場で、この先で旧道と合流する。

旧道は、三本桜から林道をさらに進み、橋の手前の指導標に従って山道に入る。昔からの道だが、よく整備された変化のあるコースだ。新道との合流点から10分も登れば杉林に囲まれた穂積神社の広場に着く。この付近では鳥の美しい鳴き声が聞かれる。俵峰キャンプ場へはこの広場から山腹をトラバースぎみに水場を越し、約1時間30分ぐらいで行ける。

薬師岳への道は、よく整備された階段状となり、真つすぐに頂上に向かっていく。ここが一番つらい登りだ。初夏にはこの付近ササユリも多く、ホトトギスの声も聞ける場所だ。左手のガレに気を付けてひと頑張り稜線に出て、俵峰からのコースと合流する。

道を左に取り約5分で薬師岳の頂上だ。頂上は小さ



薬師岳

文殊岳



竜爪山

な祠とベンチがあるが、展望はきかない。この山の名前は薬師如来から、また文殊岳は文殊菩薩から取った名前前で、高く深いこの山を霊地神体山として信仰したことが伺われる。

ここから雑木林の中を下って少し登れば、約20分で一等三角点のある文殊岳に着く。南側は、静岡・清水の市街地がよく見える。山頂の樹木が伸びて視界を遮っている。富士山と南アルプス方向のみ木が切られ展望が開けている。(穂積神社まで車で入れる)

**コースタイム：静岡駅～バス 50分～平山～ 45分～三本桜～ 60分～水場～ 15分～穂積神社～ 50分～薬師岳～ 20分～文殊岳**

## 則沢コース

則沢のバス停から文殊岳山頂まで、約900mの高度差があるが、単調な登りの道である。途中には則沢源流が湧き出している水場があり、夏は林間の涼しい山道だ。

竜爪山線バスを則沢終点で下車し、トイレのある小広場から橋を渡り、右の林道を沢沿いに進むと間もなく堰堤が見える。登山道は堰堤を越え茶畑の中を通り、杉林の中を沢の左岸に沿って続いている。沢を渡り左手の大石を通過すると、間もなく堰堤で分かれた道白山堂を経由する林道の終点との分岐にあたる。ここから40分程単調な登りを経て、則沢源流の水場に着く。沢を渡りトラバース気味に進むと風倒木地に出る。

ここは道が崩落しており充分注意して通過したい。小さな尾根へ出ると道は再び単調な急登になる。お地蔵さんが立つ小屋跡を過ぎると間もなく文殊岳から若山へ連なる稜線の牛妻コースに合流する。ここから頂上まで15分だ。

**コースタイム：堰堤登山口～ 70分～道白山林道終点分岐～ 40分～則沢源流～ 50分～稜線～ 15分～文殊岳**

(記 静岡県山岳連盟)

# UIAAのスペイン会議出席と山岳事故調査計画への参加交渉の旅

11月13日から14日にかけて、スペインのポブレット Poblet で、カタルーニャ登山連盟 F E E C (Federacio d'Entitats Excursionistes de Catalunya) 主催による U I A A 登山委員会が開催された。Poblet はバルセロナの西 120km に位置する修道院で、12 世紀ごろ建築され、1991 年世界遺産に登録された。

今回の出張には、二つ目的があった。委員会会議出席に加えて、2015 年春、日本において調印された「U I A A 山岳事故調査データベース計画」への参加を求めて、イギリスの山岳遭難救助隊 M S A R (Mountain Search and Rescue in Wales and England) の事故統計責任者 Rob Shephard 氏との参加交渉、ならびにスペインのマドリード大学 Sergio Villota 氏との事故調査方法の説明ならびに参加交渉を目的とした。

## 1. イギリスMSARとの接触

イギリスのMSARとの交渉は、既に、3年前から事故統計担当の前任者 Ged 氏と交渉を重ねてきたものである。既に、MSAR では総会 (2014) で参加を決めており、今回の目的は、新任の R o b 氏とさらに具体的な U I A A データベース・システム全般の詳細な説明とプログラムの提供を行うことであった。なお、イギリスのMSARは世界で最も進んだ事故調査を実施し、毎年各支部単位で発刊する「事故報告書」を活動基盤とするレスキュー団体である。U I A A 計画に正式参加が決定すると、U I A A 事故データベースの内容は飛躍的に向上することが期待できる。

## 2. スペインでの山岳遭難事事情

スペインでの事故調査は Sergio 氏が大学で P h . D . を取得する過程で、スペイン内にある 6 地域のレスキュー団体でまとめられた山岳遭難事故データを収集したものである。スペインでの山岳事故調査は、バスク、カタルーニャ地方での民族主義的な運動の影響を受け国情が複雑であり、難しい交渉となったようである。事故調査は、それぞれの団体で作られた調査項目が大幅に異なる結果、統計的にまとめる事が非常に難しい報告となっている。

このような背景から、登山委員会に研究面から Pierre 委員長に応援を求めてきた経緯がある。

今回の会議では Sergio の研究成果が発表された。様々なレスキュー団体の山岳部事故調査データから共通項目をまとめた結果は、我が国に類似した事故規模であった。2013 年の当調査地区での年間事故件数 2234

件、3052 人の事故者総数であった。その内、死亡 165 人、傷害 1131 人、1756 人が無事救出であった。解答のあった男女比は男 47% 女 24% となっている。なお、詳細はよく分からないが、58% の無事救出の多くは道迷いではないかとのことである。世界一道迷い事故が多いと考えられる日本として、是非とも詳細な調査データがほしいと考えられるため、今後とも交流していきたいと考えている。

## 3. Poblet での登山委員会会議

Poblet での登山委員会 mountaineering Commission (MountCom) 会議は、最近の U I A A の運営・管理方針の変化や、それぞれの U I A A 参加団体の事情で、構成メンバーが大きく変化してきた。委員会活動を支援してきた Petzl 財団の比重が非常に強くなってきたこと、今回から、欠席者のブラックリストを公表し、参加の少ないメンバーの対応が検討されるなど、議事の運び方も変化してきた。

登山委員会では登山教育標準化委員会 T S P (Training Standard Panel) に関する内容が主に討議される。T S P の行動戦略について、資格認定法の検討、ビジネス計画、様々な国 (例えば、アジア地区ではマレーシア、香港、ネパール、ヨルダン、タイ、インド、韓国) への対応、リスク対応、後述するペツル財団との共同作業などである。膨大な内容となるので、ここでは省略する。もし、詳細について関心がある場合は、青山 (aoyamachiaki@gmail.com) まで問い合わせ願いたい。

## 4. ヒヤリ・ハット調査について

今回、討議された特記事項は、ペツル財団が財政支援したヒヤリハット調査による事故調査サイトの紹介である。なお、日本では、事故に至らなかったが危なかったケースについて、ヒヤリ・ハット調査やインシデント・



レポート (Incident Report) が一般的な用語であるが、欧州ではニアミス調査 (Near Miss Survey) が使われる。

ニアミス調査は、アメリカ、コロラドのCozy氏によるUS Near Miss Surveyから登山委員会やペツル財団への呼びかけでスタートした経緯がある。ペツル財団は、この調査をヨーロッパ規模から世界規模に広げていく方針をたて、内容面での対応、支援を登山委員会、特に2014年トルコ会議よりTSPメンバーに呼びかけてきた。さらに、調査を一般化していくために、フランスの非営利団体が運営するサイトCampto-camp (別名C2C) との交渉により、ウェブサイトでの事故調査を行うことに合意した。

<http://www.camptocamp.com/> なお、当サイト運営代表のDany Bach氏によれば、サイトの特徴は、ボランティアにより管理され2007年より開始し、ウィキペディアとフェイスブックを併せた役割により3万のウェブルートを持ち、寄稿者4万人、40万人のユーザーを持つとのことである。特に、サイトは7カ国に対応できる利点を兼ね備えている。

当ニアミス計画では2人のスポーツ登山事故専門の

教授による支援を受け、C2Cの管理(役割分担)を登山委員会ならびにTSPとの間で話し合っていく予定である。

## 5. 山岳事故調査ならびに、他の議題について

山岳事故調査に関する討議は、上述のイギリスMSARとの交渉経緯ならびに、スペインSergio氏の事故調査報告について審議された。特に、複雑な背景を持つスペインでの調査をどのように支援していくのか、話し合われた。

他の議題として、Phil氏の提案した倫理問題の草稿「リスク問題でのメディア対応」が検討された。「遅かれ早かれUIAA認定コースで事故が発生する、その日に備えた対応が必要である」「それはメディアだけではなく、政府との対応も考えておくべきだ」などの意見があり、Steve氏は「BMCは通常、山岳事故へのメディア対応リストを備えている」との紹介があり、Phil氏がまとめた草稿をもとに、次回委員回での検討議題となった。

次回会議は2016年4月、チェコ共和国プラハで開催される。

(記 遭対委員会副委員長 青山千彰)

## 中華民国山岳協会創立90周年記念式典に参加して

### 会長 八木原 罔明

昨2015年12月20日、台湾山岳会、現中華民国山岳協会(C T A A)の創立90周年記念式典が台湾の台北で開催された。招待され、出席したのは本協会神崎忠男前会長、日本山岳会吉川正幸副会長(ご夫妻で)、中華民国山岳協会との長い交友がある小口治さん、今田明子さんと私、八木原の日本だけ(6名)が招かれた。何故かアジア地域からも他外国からは1人も出席者無し。

私は1969年3月の玉山登山時にお世話になったのがたしか「台湾山岳協会」と記憶していたため、どんな関係になっているのかをインターネットで調べたり、C T A Aに問い合わせると協会の沿革が届く。

1926～1945年 日治時期の・・・台湾山岳会  
1945～1950年 戦後の・・・台湾山岳会  
1950～1969年 台湾省體育會山岳協会(台湾山岳協会)  
1969～1973年 中華全国山岳委員会  
1973～迄今 中華民国山岳協会

◀「日治とは「日本統治」の意味で、日本の統治には「日抛(本来は抛の旧字)」と「日治」の異なる呼称があるという。(年が変わり1月20日の朝日新聞の文化・文芸欄にタイムリーな記事が出た)

「日抛」は国民党政府(先日総統選挙で負けた)が使う「日本による不当占拠を意味し」、「日治」は「インフラ整備など日本の植民地経営を肯定的に捉えるニュアンスが強い」という。創立時のことについては吉川副会長の挨拶文を読ませて頂くと、創立には当時の日本山岳会員が多く参加し、両山岳会は仲の良い家族の関係であったであろうという。

余談だが、台湾山岳会の創立は1926年11月8日であるので「大正15年」にあたる。大正天皇崩御は12月25



日でその日のうちに旧皇室典範により昭和になったという。ちなみに「平成」は昭和64年1月7日の昭和天皇崩御の日に元号法で元号を改める政令を公布し(当時の小淵恵三官房長官が発表)、内閣は翌日8日に同政令を施行し「平成」となったという。

＊

式典前日の19日午後台北入り。夜は何中達(Ho Chung-Da)理事長、徐宏枝副理事長他の協会の皆さんとの会食。翌日は式典本番。大きな会場には他に中華民国健行登山会、中華民国山難救助協会、台湾山岳文教協会他の皆さん、約1000名が参加しているという。そろいの登山シャツを着ている人、民族衣装を着ている人など式典、祝宴の会場を埋め尽くしている。

歌や踊りで始まり、開会となる。山で亡くなった仲間達への黙祷の後に何理事長の挨拶、関係団体代表挨拶の後で吉川日本山岳会副会長、私の祝辞が終わると我々2人だけに「源遠流長」と書かれたガラスの重い像を下さった。

祝宴が始まると過熱する総統選挙関係の政治家が入れ替わり、立ち代わり壇上から演説をする。良く分からなかったがどうも今回勝利した民主進歩党(民進党)関係者が多かったらしい。いづこも選挙は大変である。

20日の晩も何中達理事長他の役員の皆さん方との夕食会に招かれた。持参の日本人形を感謝の気持ちと一緒に差し上げる。21日の午前中は市内観光後に包子(ばおず)をご馳走になって帰国。深謝。

## スポーツクライミング2016 キックオフ記者発表会

1月26日(火)に岸記念体育会館のスポーツマンクラブで、ボルダリングの日本一を決める第11回ボルダリング・ジャパンカップ(BJC, 1月30日~31日、埼玉県加須市民体育館)に向けてキックオフ会見を開催。



2020年東京五輪の追加種目決定に向け、PR大作戦を行った。アピールの第一弾がテレビ放送。これまで録画放送はあったが、今回は「スカイ・A Sports+」、「BSスカパー!」での無料放送に漕ぎ着けた。

会見では、スポーツクライミングの3種目(リード、ボルダリング、スピード)のルールを映像を使って分かり易く説明。BJCのみどころなどを解説した。会見には、日本代表選手の杉本怜、野口啓代、小林由佳の3選手も出席し、今季の目標と東京五輪への抱負を語った。



## 埼玉県山岳連盟創立60周年記念式典 (平成27年11月28日 浦和ワシントンホテル)



## 平成27年度顧問参与会報告

2016年新春懇談会に合わせて1月16日10時30分より東京・アルカディア市ヶ谷で顧問・参与会が開催された。

顧問は坂口三郎、瀧島清、国澤鎮雄、城隆嗣、田中文男、本木總子、神崎忠男氏の7名。日山協からは八木原会長、尾形・高橋・亀山副会長、瀧本常務理事、内藤監事ら6名の役員が出席し、参与は全国から22名が参加された。

八木原会長挨拶の後、尾形副会長・専務理事より、日山協の現況報告として資料に基づき平成27年1月～12月の組織・役員体制、財政状況、事業概況、スポーツクライミングの五輪種目化、諮問委員会設置、ネパール大地震救援募金、山岳共済会などの現況を報告した。

参与からのご意見では、スポーツクライミングの五輪種目化の話聞いて、国体の山岳競技を如何に競技化するか苦心した時代を思い出し、隔世の想いである。スポーツクライミングの五輪種目化はこれまでの流れから見ても必然であり、これからは国内外の対応が求められると思うが、柔軟性のある対応を望む。五輪種目化された場合の財源確保は大丈夫か。これまで国内で実施されていないスピード種目がオファーされたが、対応できるのか。2020年東京五輪での競技参入が決まったら日山協としては選手強化に努め、メダルを獲得すべきである。

祝日「山の日」をひとつの契機として中高年登山者への安全登山の啓発、遭難事故防止に力を入れてもらいたい。NHK登山教室で専任講師を務め、毎月講座を受け持っているが、少しでも多くの人に山に登ってもらうことが、安全登山の普及になっていると思っている。未組織登山者への指導を誰が、どこがやるのか。丹沢ではボランティアで講習会を立ち上げて未組織登山者の指導をしている。中高年登山者を組織化して20年登山をしているが、中高年登山者もきちんと指導すれば安全な登山を実践できる。近年は若い人や単独行が増え、Webサイトでの俄かパーティ、ヘリコプターのタクシー代わり利用など多様化と多くの問題をはらんでおり、これらの現実を直視して対応していかなければ、事故は無くならない。こうした問題点から長野では7月から科料のない登山条例が施行される。

山岳共済会員が相変わらず5万5千人で伸び悩みとのことだが、若い人へのアピールが足りないのではないか。近年は若い登山者が増えており、若者のニーズにあった対応が必要ではないか。

自然地理に興味を持たない学生が増えてきていることは憂慮すべきだ。

日山協にしか出来ないような事業を展開して貰いたい。顧問・参与会での意見をきちんと協会運営に反映して貰いたい。などについてご意見を頂いた。

(記 尾形好雄)

## 第5回日本山岳グランプリ贈賞

本会の創立50周年記念で制定された日本山岳グランプリの第5回受賞者は、岐阜県山岳連盟から推薦された飛騨山岳会に決定した。

飛騨山岳会は、日本の近代登山の黎明期の明治41(1907)年に逸早く創立された地域

山岳会で、日本山岳会(1905年創立)に次ぐ歴史と伝統を誇る。爾来、紆余曲折を経ながらも107年の長きにわたって笠ヶ岳、錫杖岳などをホームグラウンドに地域に密着した山岳文化の振興に貢献された。また、登山技術の向上を追及した実践的登山を継続され、その活動は国内外に及び、メルー北峰(インド)初登頂、モンタ・カンリ(中国)初登頂など登山史に燦然と輝く数々の登攀記録を残されてきた。

一方、岐阜県山岳連盟の創立に尽力されて以来、岳連の主要山岳会として抜群の指導力を発揮し、岐阜県山岳連盟を牽引されてきた功績は多大である。



憧れのロッジに3連泊、ロッキーの絶景に出会う旅

### アシニポイン・ロッジと レイクルイズ 9日間

発着地 東京 旅行代金 ¥562,000~¥638,000

出発日 6/23(木)・6/30(木)・7/21(木)・8/11(木)・9/15(木)

※燃油サーチャージ(2016年1月25日現在:目安約14,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボコド保護会員

 **ALPINE ツア サービス 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com



平成27年度1月(28年1月)  
常務理事会・連絡部会報告

日時 平成28年1月7日(木)

[連絡部会] 18時～19時30分

[常務理事会] 19時30分～21時

場所 岸記念体育会館・会議室

出席者 八木原会長、尾形・國松・高橋・  
亀山各副会長、小野寺、西内、仙石、森  
下、京オ、水島、瀧本、中瀬各常務理事、  
中島監事、相良、松隈、澤田、西原、各  
委員長

委任 仙石登山副部長、増山・小日向・  
山本・角田委員長

## 1. 議事

- (1)平成27年度12月常務理事会議事録の承認について(事前送付済) 異議なく承認された。
- (2)ユース合宿・選手派遣(1/4～12, イタリア・トリノ)について 提案通り、小日向団長他23名の派遣が承認された。
- (3)第5回日本山岳グランプリの承認について 選考委員会から提案された飛騨山岳会が異議なく承認された。
- (4)新春懇談会の表彰候補者の承認について 岳連と選手強化委員会から追加推薦のあった以下の被表彰候補者が承認された。木村実(茨城)、徳永邦光(東京)、緒方良行(福岡)、野口啓代(茨城)
- (5)国内WCM(Winter Climbers Meet)の助成について 提案通り、異議なく承認された。
- (6)JSCへの改善方策回答書について 小野寺事務局長から資料に基づき説明され、提案通り承認された。
- (7)競技部の補正予算について 森下競技部長より競技部の補正予算が提案された。第1次補正予算を再確認して、第2次補正予算で修正することで承認。
- (8)平成29年度勲章及び褒章候補者の推薦について 推薦条件を満たす役員が居ないため平成29年度の候補者は該当者無し、とすることで承認。
- (9)平成27年度C級審判員認定特別研修会について 提案通り、東京都の開催が承認された。
- (10)報告事項
  - ア)平成27年度1月度月次報告 資料に基づき相良理事から報告があった。博報堂の協賛金とそれに対する補正予算について質問あり
  - イ)マイナンバー制度における謝金支払管理について 小野寺事務局長から本協会の対処について説明があった。
  - ウ)第65回日本スポーツ賞選考結果について 本協会推薦の緒方良行選手が選考されたことが報告された。
  - エ)新春懇談会と顧問・参加会について 参加及び準備状況が報告された。
  - オ)第71回国体における監督の指導者資格保有義務付けの取扱について 山岳の場合、A,C,S,C指導員に該当

- イ)平成28年度事業計画と予算について
- ウ)平成27年度出前講座の開催について
  - ・28年2月20日～21日 埼玉岳連(小川町) 紅葉・松隈委員派遣
- エ)情報交換・連絡事項
  - ・尾瀬フォーラム 12月19日 消防会館ニッショーホール(小島、徳永、猪狩、廣田、湯浅)
- オ)UIAA「Respect the Mountain」キャンペーンについて
- (5)遭難対策委員会
  - ア)12月16日(木) 出席13名
  - ア)常任委員候補者の推薦について 群馬県より若手の常任推薦提案があった。来年度より常任委員とする方向で調整する。神奈川県からも若手(女子)の推薦があり、積雪期レスキュー講習を受講するのでその後で判断。
  - イ)積雪期レスキュー講習会について 現在 常任14名、JAN2名、スタッフ2名 計18名
  - ウ)その他
    - ・ヒトココについて：使用方法を含めレスキュー講習会で確認する。
    - ・関東地区山岳連盟総会について：本年度は各県の委員長が集まり会合を実施する事で埼玉岳連で指導と遭難の合同で行うこととし、翌日の午前中も実施予定。
- (6)指導委員会
  - 1月4日(月) 出席9名、委任2名
  - ア)スポーツクライミングのピクトグラム(指導者カードのマーク)について
  - イ)指導常任研修会について
    - ・12/12(土) 於 都岳連会議室
  - ウ)スポーツ指導者連絡会議(日体協)
  - エ)氷雪技術研修について
    - ・大山：瀧本、野村、切嶋
    - ・富士山：2月の指導委員会で要項を決定して送る。
- オ)規約改定作業について
- (7)競技部合同委員会
  - 12月17日(木) 出席17名
  - ア)全日本パラクライミング選手権大会開催について(1/10、明治大学和泉キャンパス)
  - イ)第11回ボルダリング・ジャパンカップについて(1/30～31、加須市民体育館)
  - ウ)日本選手権大会兼全日本クライミングユース選手権リード競技大会2016“マムートカップ”開催について(3/26～27、印西市松山下公園総合体育館)
  - エ)競技運営委員会の業務担当の明確化について 通常業務担当を明確にし、全国と円滑な運営連携を図る。
  - オ)ブロック別研修会実施要項、講師選任について
  - カ)全日本スポーツクライミングスピード選手権2016の開催について
    - ・趣旨としては理解できるが、年度途中での提案であること、今後の競技力強化との戦略との検討が必要である。
  - キ)常務理事会報告(12/10)
  - ク)国体役員編成の報告
  - ケ)BWC(BJP)実行委員会報告
  - コ)諮問委員会報告
  - サ)アジア選手権報告(11/20(金)～22(日)、中国 寧波)
    - 金メダル3個、銀メダル、4個、銅メダル2個、合計9個のメダルを獲得。是永敬一郎、堀創、野中生萌が、来年9月

## 2. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)第16回全日本山岳スキー競技大会/第36回秋田県山岳スキー競技大会の後援名義使用について 異議なく承認された。

## 3. 報告

- (1)SC指導員
  - 神奈川：亀村雅昭、今井勝彦、柴野昌也、大村浩、布施貴弘
  - 群馬：岩崎年伸、柳沢順
 異議なく承認された。

## 4. 専門委員会動静(12月8日～1月6日)

- [報告]
  - (1)ジュニア・普及委員会
    - 11月30日 出席5名
    - ア)ジュニア普及情報交換会について 2/13(土)、東京スポーツ文化館：会議室20人部屋 15時～17時
    - イ)なすかし雪遊び隊2016について
    - ウ)中高年安全登山指導者講習会(西部地区)報告
      - ・11/28(土)～30日(月) 京都一周トレイル 京北コース、飯盛山周辺、62名参加
    - エ)第55回全日本登山大会・島根大会について
  - (2)国際委員会 12月8日(火) 出席者7名 委任8名
    - ア)UIAAジョイント・エクスペディション「ハン・テングリ」について
    - イ)マイク・リベッキ海外登山懇談会の報告について
      - ・11/19(木)、国立オリンピック記念青少年総合センター、参加者54名)
    - ウ)第54回海外登山技術研究会について(2/13(土)～14(日)オリゼン)
    - エ)ロシア女性クライミングフェスティバルについて
  - (3)選手強化委員会
    - 12月12日(金)
    - ア)選手・チームオフィシャル合同会議について
  - (4)自然保護委員会 12月17日(木) 出席者13名、委任2名
    - ア)山岳団体自然環境連絡会の報告(11/7、於：労山) 環境省国立公園課松尾浩司専門官による「二ホンジカ被害の現状と環境省の取組み」について報告

開催の世界選手権I Fシード権獲得。  
 シ) アジア・ユース選手権報告(12/4日  
 (金)~6(日) マレーシア・Putrajaya)  
 金メダル14個、銀メダル8個、銅メ  
 ダル6個、合計24個のメダルを獲得。  
 ユースBまでの優勝者、来年9月開催  
 の世界選手権への出場が認められた。  
 ス) 選手・チームオフィシャル合同会議  
 報告  
 セ) 第2回ルートセッター研修会報告  
 ソ) 全国高校選抜クライミング選手権大  
 会準備状況について(12/23-24 埼  
 玉県加須市 加須市民体育館)  
 男子109名、女子86名、合計195名、42  
 都道府県より参加申込み  
 タ) アイスクライミング大会(後援)開催  
 の報告(12/5-6 長野県川上村)  
 男子36名、女子12名、合計48名 前  
 回の大会の2倍の参加者  
 チ) 国体後催催の準備状況について  
 ・三重県(H33):正規視察(11/19)京才、

西原派遣

5. 日誌(12月12日~1月7日)

- (1)第2回加盟団体連絡会議兼ドーピング  
防止研修会 12月11日(金)  
於:東京都 西嶋AD常任委員
- (2)山岳スキー競技大会協議  
12月12日(土) 於:長野県山岳総合セ  
ンター 八木原会長、尾形副会長
- (3)日本ヒマラヤ協会華甲望年会  
12月12日(土) 於:主婦会館プラザエ  
フ 尾形副会長
- (4)日本体育協会指導者育成50周年記念  
式典・祝賀会 12月13日(日)  
於:品川プリンスホテル 八木原会長、  
尾形副会長
- (5)中国ブロック競技部研修会  
12月12日(土)~13日(日) 於:岡山 玉  
野スポーツセンター 高橋常任委員、  
古林常任委員
- (6)北信越ブロック競技部研修会

- 12月12日(土)~13日(日) 於:長野 山  
岳総合センター 中村常任委員、寺谷  
常任委員
- (7)諮問委員会 第2回 12月14日(月)  
於:岸記念体育会館 尾形副会長、小  
野寺事務局長、森下競技部長
- (8)JOC調査、12月15日(火) 於:事務  
局 尾形副会長、小野寺事務局長
- (9)内閣府「噴火時等の避難計画の手引き  
作成委員会」12月16日(水)  
於:中央合同庁舎8号館 尾形副会長
- (10)2015年毎日スポーツ人賞表彰式  
12月17日(木) 於:東京ドームホテル  
尾形副会長、小野寺事務局長
- (11)JADAとの平成28年度に向けたアン  
チ・ドーピング活動調整会議  
12月17日(木) 於:事務局 中川AD  
常任委員 西原AD副委員長
- (12)第3回加盟団体連絡会議兼ドーピング  
防止研修会 12月18日 於:新大阪  
丸ビル別館 西原AD副委員長
- (13)和歌山県ゴールデンキッズ発掘プロ  
ジェクト「キッズトライアル」事業  
12月19日 於:和歌山県立体育館  
中貝次郎(選手強化常任委員)
- (14)尾瀬フォーラム  
12月19日(土) 於:消防会館ニッショ  
ー  
ホール 松隈委員長他
- (15)台湾CTAA創立90周年記念セレモ  
ニー 12月20日(日) 於:台北  
八木原会長 神崎顧問
- (16)第6回全国高等学校選抜クライミング  
選手権大会 12月23(水)~24(木)  
於:加須市民体育館 八木原会長、尾  
形副会長、森下部長、中瀬担当理事西  
原、山本各委員長
- (17)第2回ルートセッター研修会  
12月25日(月)~27日(水) 於:加須  
山本委員長
- (18)選手強化合宿  
1月4日(月)~12日(火) 於イタリア・ト  
リノ 小日向選手強化委員長他
- (19)国立登山研修所専門調査委員会  
1月7日(水) 於:日本スポーツ振興セ  
ンター 尾形副会長

寄贈図書

雑誌	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.824 2016年2月号
	山と渓谷社	「山と渓谷」No.970 2016 2月号
	日本山岳遺産基金	「日本山岳遺産基金通信」No.10
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.673
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第428号
	日本山岳文化学会	「山岳文化」第16号
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へアルク」2016 2・3
	横浜山岳会	「月刊山」1003号
	福岡山の会	「せふり」No.372
	日本ヒマラヤ協会	「ヒマラヤ」No.475
	中華民国山岳協會	「中華山岳」《双月刊》250
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第583号
	明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」No.179
	大阪府山岳連盟	「山岳おおさか」No.207・別冊
	登歩渓流会	「活動記録総覧」
	NPO日本トレニング指導者協会	「JATI」Vol.50
	Korea Alpine Club	「Man & Mountain」No.315 2016.01
	(公財)健康・体づくり事業財団	「健康づくり」No.453
	La rivista del Ciub alpino italiano	「Montagne 360」dicembre2015
	(公財)尾瀬保護財団	「はらかな尾瀬」Vol.28
	(公社)国土緑化推進機構	「ぐりーん・もあ」第72号
	Corean Alpine Culb	「山」Vol.245
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBCnews」第530号
	三峰山岳会	「岩つばめ」No.349
	(公財)日本体育協会	「SPORTS JAPAN」vol23 2016 1-2
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.315
	スポーツ心のプロジェクト運営本部	「スポここ新聞」第11号 2015年度 冬号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」2016 2月 No.492
	自然保護ボランティアファンド	「自然保護ボランティアファンド通信」28年1月1日 第23号
	(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」Vol.271
	中国登山協会	「CHINA OUTDOOR山野」総209期
	中華民国健康登山会	「中華登山」2016.1
	(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」第233号
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第322号
	日本山岳会	「山」2016年1月号 No.848
	富士山測候所を活用する会	「芙蓉の新風」Vo 1 10
	東京野歩路会	「山嶺」Vol93 No.1031 2016. 2月
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第429号
	横浜山岳会	「月刊山」1004号
	Korea Alpine Federation	「大山聯」Vol.205
おいらく山岳会	「山行手帖」No.674	
(公財)日本体育協会	「スポーツニュース・フェアプレイニュース」2016年1月25日号	

編集後記

埼玉開催の関東地区山岳連盟総会に参加してきた。今年から総会前に専門委員会各県担当者による情報交換会が行われた。関東ブロックでは初めてのことであり、各県の足並みが揃わなかったようだが、分科会報告によると活発に協議されたようだ。ネット社会で世間は狭くなった感があるが、情報の精度・熱意や本気度は対面でなければわかりあえないような気がする。日山協の藤元、関東岳連の活性化を期待します。(広報担当 水島彰治)

登山月報 第563号

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)  
 発行日 平成28年2月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人日本山岳協会  
 電話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和田峠「峠の茶屋」 TEL:042-687-2882

ユージンロッジ安全管理 TEL:042-687-4011

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会
- 陣馬高尾ムーンナイトトレイルレース実行委員会
- 峰山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

山岳  
雑誌

# 岳人

山と人、  
時代をつなぐ  
「がくじん岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

## 年間購読がおすすすめです。

**購読割引** **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊  
**8,160円** (+税) → **7,480円** (+税)  
(税込8,812円) (税込8,078円)

1年間で680円  
1冊分無料



岳人オリジナル  
手ぬぐい & ペーパーナイフ



**3月号**  
2/15発売

「岳人」2016年3月号

【特集】山の謎

【好評連載】フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」／石川直樹「まれびと」／畠山重篤「山と海の出逢い」／岳人プロファイル ほか

本体価格 680円 (+税)  
★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

年間購読  
お申し込み方法

◎ウェブサイトで  
<http://www.gakujin.jp>

◎お電話で (受付後に振込用紙をお送りします)  
0120-982-682 / TEL 06-6538-5797  
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◎全国のモンベルストアで  
<http://store.montbell.jp>

立ちどまらない保険。

**MS&AD**

三井住友海上



三井住友海上の安心

# GK

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)



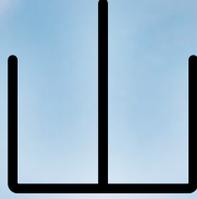
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8月11日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます